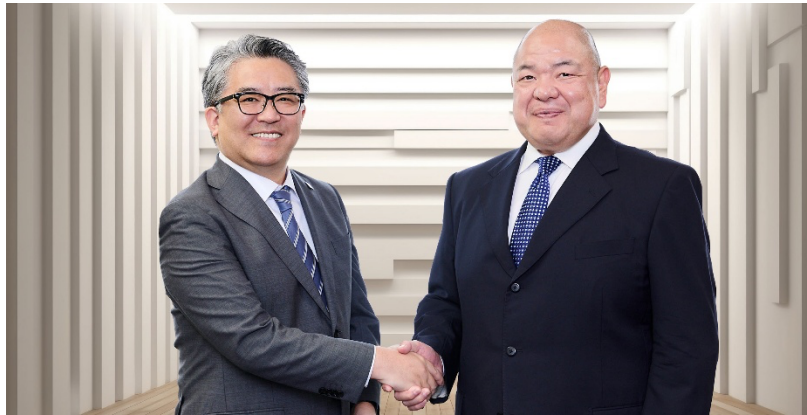


日本相撲協会 八角理事長 × HIROTSUバイオサイエンス 広津崇亮
命を守る10年の歩みを語る特別対談広告を読売新聞に掲載
「誰かの力に」その想いが原動力～挑み続けた10年、それぞれの想い～



株式会社HIROTSUバイオサイエンス（本社：東京都千代田区、代表取締役：広津崇亮、以下 当社）は、公益財団法人日本相撲協会 理事長 八角信芳氏と当社代表・広津崇亮による特別対談広告を、2026年3月13日付の読売新聞（東京版）に掲載しました。

本対談は、当社が日本相撲協会のオフィシャルパートナーとして協会の健康維持を支援している取り組みを背景に実現したものです。また、線虫の嗅覚を活用したがんリスク検査「N-NOSE」の発明から10年、さらに八角理事長の理事長就任丸10年という節目が重なったことを契機に実施されました。大相撲三月場所開催中の本日、読売新聞にて特別対談広告が掲載されました。対談では、社会のさまざまな立場で活動する両者が、それぞれの経験や挑戦を通じて大切にしてきた想いについて語り合っています。

■ 掲載概要

媒体：読売新聞（都内版）

掲載日：2026年3月13日（金）

内容：特別対談「誰かの力に」その想いが原動力 ～挑み続けた10年、それぞれの想い～

Web公開：当社ホームページでも対談内容を公開しています（<https://hbio.jp/taidan/>）

■ N-NOSE誕生から10年、検査体制の進化

対談では、N-NOSEの社会実装の歩みについても紹介されています。当社は研究開発を進める中で、より多くの人が検査を受けやすい環境づくりを進めてきました。

その結果、

- ・自宅での検体採取
- ・ポスト投函による検体提出（常温輸送）

といった検査体制を実現し、検査の利便性は大きく向上しています。

こうした取り組みは、「一人でも多くの人の健康を守りたい」というN-NOSE開発当初の理念を社会に広げていくための重要なステップとなっています。

■ 「誰かの力に」という原点

今回の対談では、社会の中でそれぞれの役割を担う立場から、これまでの歩みや、次世代へつなぐ想いについて語られました。

歩んできた道は異なるものの、「誰かの力になりたい」という原動力において両者は深く共鳴し、社会に対する責任や健康リテラシーの重要性について多角的な視点から意見が交わされています。

■ HIROTSU バイオサイエンスについて

生物の能力を活かした独自の検査技術の研究開発と実用化を通じて「人々の健康と未来の安心を守ること」を目指しています。2016年に設立し、研究者の豊かな発想とたゆまぬ努力で、N-NOSE[®]が実用化されました。人生100年時代、健康寿命の延伸が重要視される一方で、2人に1人ががんに罹患すると言われています。こうした社会的課題の解決に、人工機器を凌駕する線虫の優れた嗅覚の力を活用した世界初の画期的な技術をもって貢献いたします。

所在地	東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 22 階
代表者名	代表取締役 CEO 広津 崇亮
設立年月	2016 年 8 月
主な事業内容	線虫および線虫嗅覚センサーを利用したがん検査の研究・開発・販売
コーポレートサイト	https://hbio.jp/

■ 「N-NOSE[®]」について

嗅覚に非常に優れた線虫 *C. elegans* が、人の尿中に含まれるがん特有の匂いを高精度に検知することを利用した、がんのリスク検査。尿を提出するだけで、簡便・安価・高精度・全身網羅的に早期がんリスクを調べることが可能です。

サービスサイト：<https://lp.N-NOSE.com/>